

# 金沢大学十全医学会総会報告

平成24年度 十全医学会総会次第

日 時 平成24年7月7日(土) 9:00～10:00

場 所 金沢大学医学部記念館

- 
- I・会 長 挨拶  
 II・十全医学賞授賞式  
 III・庶 務 報 告  
 平成23～24年 事業計画および報告  
 IV・会 計 報 告  
 1. 平成23年 決算報告  
 2. 平成24年 予算計画  
 V・編 集 報 告
- 

## I. 会長挨拶

井上正樹会長から、十全医学賞授賞式及び学術集会開催に先立って総会議事を行う旨の挨拶があり、会長が議長となって議事が進行された。

## II. 十全医学賞授賞式(楯の授与)

平成23年度(第8回)受賞者と受賞研究題目は次の通りである。

若山友彦先生(金沢大学医薬保健研究域医学系組織発達構築学 准教授)

研究題目『造精細胞とセルトリ細胞の相互作用による精子形成の調節機構の研究』

長谷川 稔先生(金沢大学附属病院皮膚科 講師)

研究題目『全身性強皮症の臨床・基礎研究：病態解明～早期診断～治療の確立を目指して』

## III. 庶務報告

中村裕之庶務担当理事が、資料に基づき平成23-24年度事業計画等について報告した。

### 1. 十全医学会会員数について

十全医学会会員数(平成24年6月現在)約2,009名(昨年より79名増)(学外1754名,学内255名)

### 2.

#### 1) 平成24年役員について

平成24年1月1日より新役員として

庶務担当理事	視覚科学	杉山和久教授
会計担当理事	神経分子標的学	堀 修教授,
	感覚運動病態学	吉崎智一教授
集会担当理事	血管分子生理学	多久和 陽教授,
	分子遺伝学	村松正道教授

編集担当理事 がん進展制御研究所腫瘍動態制御  
松本邦夫教授

監事 保健学系病態検査学 河原 栄教授,  
形態機能病理学 佐々木素子准教授  
が就任され,他は留任となった。

また,平成24年より新体制に伴い,役員任期について会則に追加付記をした。

第10条 役員の任期は1期2年とし,再任をさまたげない。ただし,再任は3期を限度とする。

### 2) 新評議員について

昨年(平成23年6月15日)に開催された総会でのご報告以降に(学外)近藤峰生教授(三重大学),(学内)川尻秀一教授(細胞浸潤学),井上 啓教授(脳・肝インターフェースメディシン研究センター),佐藤 純教授(脳・肝インターフェースメディシン研究センター)が評議員に就任された。

### 3) 評議員退任について

評議員の小川 智先生(前 神経分子標的学 教授),中川隆雄先生(東京女子医大附属第二),梅 博久先生(金沢医科大学 教授)が退会された。

### 3. 会議開催日について

平成23年は総会・学術集会は6月15日(詳細は十全医学会雑誌120巻3号に掲載)に開催され,定例の理事会は平成23年2月8日,11月14日,及び評議員会は平成23年3月2日,12月7日に開催された。平成24年は理事会2月13日,評議員会3月7日に開催された。

以上,報告の通り承認された。

#### Ⅳ. 会計報告

堀会計担当理事により、平成23年度決算報告(河原、佐々木両監事による監査報告添付)が説明され、承認された。また、引き続き平成24年度予算計画が提案、説明され、同様に承認された。

#### Ⅴ. 編集報告

井関尚一編集担当理事から、次の通り、新編集委員と平成23年度の十全医学会雑誌の発行状況についての説明があった。

1. 新編集委員に土屋弘行教授(機能再建学)、山岸正和教授(臓器機能制御学)、小出 寛准教授(再生分子医学)が就任された。

2. 平成23年度は十全医学会雑誌120巻1号～4号を発行し、発行回数4回、受付原著論文数5編、総説13編(うち高安賞受賞3編、十全医学賞2編)、研究紹介5編、修士課程優秀論文要約2編、見聞記6編、学会開催報告14編であった。

(文責：中村裕之)

## 金沢大学医学部創立150周年記念講演会報告

平成24年(2012)は金沢大学医学部創立(1862)から150周年に相当するため、平成24年十全医学会学術集会は金沢大学医学部創立150周年事業と共催することとなった。平成24年7月7日、医学部記念館で総会開催後、十全講堂で記念講演会が開催された。井関尚一(組織発達構築学教授)座長のもとで本庶 佑氏(京都大学大学院医学研究科特任教授)による「遺伝子が語る生命像」、次いで、井上正樹(分子移植学教授)座長のもとで安藤忠雄氏(東京大学名誉教授・建築家)による「これからの日本のあり方について」の講演を賜った。当日は雨模様であったが、600人を超える参加者があり、十全講堂



に入れなかった来場者には同時電子配信された基礎講義室(A棟)も開放されたが満席となった。両講演は人類の将来像について、分子生命科学からの、人間社会科学からの、それぞれ個性豊かな創造性に富む示唆であり、厳しい中にも夢のある感銘深いお話であった。医学部創立150周年記念講演会にふさわしい正に白眉の講演であった。

講演内容抄録と当日発行した記念特集号は別紙の通りです。

(文責：井上正樹)

